

世紀末の昏くらき残照

昏くらき残照

日本初の回顧展

《婦人の肖像》 1902年
ゴットフリート・ケラー財団（新ビル美術館寄託）



カー
ル・
ヴ
ァ
ル
ザ
ー

スイ
ス
の
画
家
の
回
顧
展

KARL WALSER

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

2026.
4.18 sat. → 6.21 sun.

休館日=月曜日(ただし5/4、6/15は開館)
開館時間=10:00~18:00(金曜日~20:00) *入館は閉館30分前まで

主催 東京ステーションギャラリー
(公益財団法人東日本鉄道文化財団)
後援 在日スイス大使館
協賛 T&D保険グループ
スイス インターナショナル エアラインズ
スイス ワールドカーゴ
企画協力 キュレイターズ

カール・ヴァルザーとは何者か？



《森》 1902-03年 新ビール美術館



《隠者》 1907年 チューリヒ美術館



《人形の乳母車と少女》 1905年以前 新ビール美術館

は、近年その再評価が始まっていますが、知名度のかなり低い画家と言っている人が多いでしょう。1877年に、スイスのベルン近郊にあるビールで生まれたカール・ヴァルザー(1877-1943)は、シュトラズブルク(*1)の美術工芸学校で学んだ後、1899年にベルリンに移りました。1902年に、伝統的で保守的な芸術からの脱却を目指すベルリン分離派(*2)の展覧会に初出品し、翌年には会員になります。この時期の鮮烈でありながら神秘的な作品群

は、世紀末の残照とも言おうべき昏さを感ぜさせ、強烈な印象を与えます。

画家カール・ヴァルザーの名を知る人は、美術業界においても決して多くはありません。母国スイスで

室内装飾や壁画などの分野でも活躍しました。ドイツとスイスにはいくつもの壁画が現存します。舞台美術の分野ではシニョクスピアをはじめ

多くの作品でセットやコスチュームのデザインを担当しました。また、装幀や挿絵でも、

少くない仕事を残しました。その巧みな線描表現も本展の見どころのひとつです。

120年前の日本が鮮やかに甦る

1908年、ヴァルザーはドイツの出版社に依頼されて、小説家のケラーマン(*3)とともに日本を訪れます。

4月から約半年に及ぶ滞在期間中に2人は日本各地を巡りますが、大いに気に入って長逗留したのが宮津(京都府)でした。ヴァルザーはこの街で、芸妓や舞妓、歌舞伎役者や市井の人々の姿を、生き生きとした筆致と美しい水彩で描きとめています。京都では風景や祭を油彩で描き、重厚な作品に仕上げました。

《歌舞伎の女形(《歌舞伎の一場面》のための習作)》 1908年 ベルン美術館(友の会) ©Kunstmuseum Bern



- *1 現在のストラズブル(フランス)、当時はドイツ領だった。
- *2 分離派の運動は、ミュンヘンで始まり(1892年)、ウィーン(1897年)、ベルリン(1898年)へと波及した。
- *3 ベルンハルト・ケラーマン(1879-1951)、ドイツの作家。資本主義を批判した『トンネル』(国書刊行会)が有名。
- *4 ローベルト・ヴァルザー(1878-1956)、詩人。邦訳に『日々はひとつの響き ヴァルザー=クレール詩画集』(平凡社)などがある。

挿絵に、舞台に、

『フィガロの結婚』小姓』 1911年 新ビール美術館



《『ロミオとジュリエット』乳母》 1907年 新ビール美術館



入館料＝一般1,800(1,600)円、高校・大学生1,300(1,100)円、中学生以下無料

*障がい者手帳等持参の方は、一般1,300(1,100)円、高校・大学生1,100(900)円[ともに介添者1名は無料]

* ()内は前売料金[3/1~4/17、オンラインチケットで販売]

*前売券・当日券はオンラインチケットwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/で販売

*当日券は当館1階でも販売

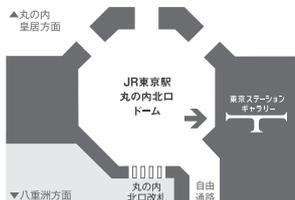
オンライン
チケット



・都合により開催内容が変更になる場合があります

・最新情報や関連イベントは当館ウェブサイトですぐご案内します

次回展 | 生誕130年 前田寛治 ポエジイとレアリズム 2026年7月4日(土)~8月30日(日)



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

住所 | 東京都千代田区丸の内1-9-1

交通 | JR東京駅 丸の内北口 改札前

Tel | 03-3212-2485

ウェブサイト | <https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>